

第7回門真市魅力ある教育づくり審議会

各部会での意見（まとめ）

○子どもの学ぶ意欲向上部会での意見

- ・地域の方の目で見ると、実際にしんどい家庭かどうかを断定することはできない。通報することによりご近所付き合いの面で難しいところがある。
- ・個人情報の問題があって、自分が挙げた情報の子どもが、その後どうなっているのかというところが見えづらいので、情報を挙げていくということに意義を感じにくい。
- ・学校からはその校区のことをよく知っている元教諭が関わってくれることで助かる部分がある。
- ・これからの事業の方向性としては、学校で一番困っている一番連絡を取りたい保護者、ご家庭の情報がこの応援団から吸い上げられると助かる。
- ・応援団自身を増やしていく、地域の支援的な人材を増やしていく中で、学校等で顔を合わせていくことで、もう少しやりがいか、自分の関わり方などのフィードバックが得られるのではないのか。
- ・子どもの未来応援ネットワーク事業としては教育と福祉の連携という部分があるので、この点についてはこれからも進めていく必要がある。
- ・スクールカウンセラーがいることによって、不登校気味のご家庭の保護者も含めて非常に助かっている部分がある。
- ・スクールソーシャルワーカーは、専門的なアプローチができるので非常に助かっている部分がある。
- ・専門家が関わることの意義については否定的な意見はないが、回数と勤務時間の面でスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーが足りていないという部分がある。
- ・モデルとなる学校をひとつ作って、活用の仕方や連携の仕方を他の学校に示していく必要があるのではないのか。

○つながりのある教育の創造部会での意見

- ・昔は学校の先生から特にキャリア指導のようなものは受けていなかったが、「とりあえず高校だけは」等の話があり、当時の進路指導はそれでも安心感があった。
- ・最近の学校では職業講話やゲストティーチャーを招いた授業、キャリア教育に基づいた指導があり、非常にうらやましい。
- ・なかなか家で子どもに時間をとってあげられない家庭も多い中で、学校がいろいろな取組をしてくれているのはありがたい。
- ・ゲストティーチャーの中には、学校ではなかなか教えられないこと、例えば忍耐であるとか社会に出て必要なこと等を意識して教えてくれるので、このキャリア教育のプログラムは推進していただきたい。
- ・学校は、キャリアを意識し、小中一貫した教育をおこなっているが、なかなか将来展望が持てない子どもややる気のない子どももおり、さらなる改善ないしは充実をしていただきたい。
- ・支援学級に通う子どもの数は増えており、また外国につながる子どももたくさんいる中で、インクルーシブ教育やユニバーサルデザインの取組を行っている。
- ・支援を必要とする子どもがいることで周りの子どもも一緒に成長していることや、外国につながる子どもがいることで、広い見識を得ながら、学ぶことができているというメリットも多くある。
- ・これらの取組は、支援を必要とする子どもだけでなく、すべての子ども達にとっても学習環境の改善につながっており、非常にメリットがある。
- ・支援を必要とする子どもや外国につながる子ども、貧困等で厳しい家庭環境にある子ども達にとって安心して過ごしやすい学校づくりというのは非常に重要である。
- ・基礎的な環境整備は、支援を必要とする子ども達にとって最低限保証しなければならないが、子ども同士の関わりを重視していくような教育の在り方を考えていくことも子どもにとって優しい学校環境づくりではないか。